

参加型で被災者が楽しめるアート制作

18班

曾我彩乃 鯉田璃緒 中村美晴 仲原侑真 木下聖山 木元真央 正武田大悟

背景(取り組むきっかけ)

能登半島地震で被災して仮設住宅に住んでいる人たちがアートを通じて活気づけたいと思ったから。

現状(課題の整理)

○復興があまり進んでいない

○震災後の変化

《地域とのつながり》

「人との付き合い」と回答した人が最も多い(図1)

→地震によって**地域とのつながりが薄れた**。

《心境の変化》

・能登に愛着があるが、能登での今後の生活に**不安や心配を抱いている**人が多い(図2)。

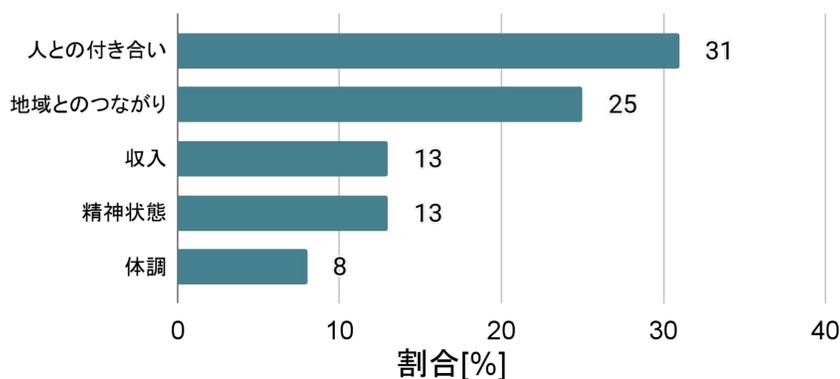


図1 現在の生活が地震前と比べて最も変わったこと(複数回答可)

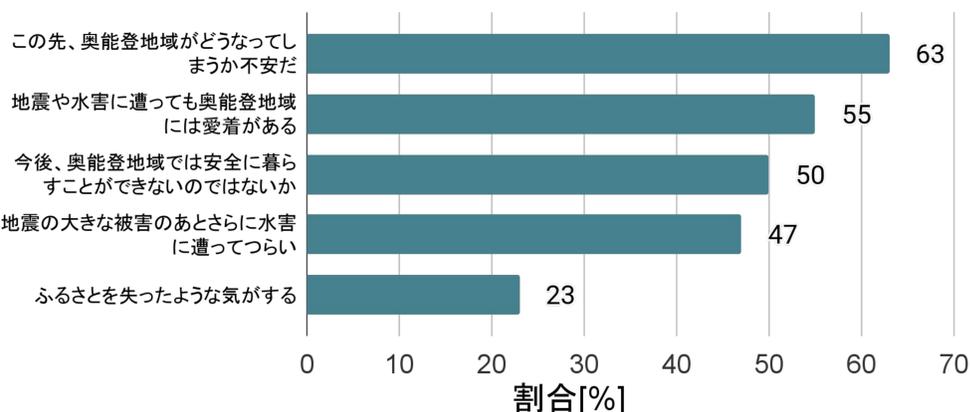


図2 地震と豪雨で二重被災した現在の心境(複数回答可)

(NHK『“復旧・復興の進捗感じず” 回答の68% 能登半島地震1年』より作成)

提案(解決策のアイデア)

〈解決案の概要〉

被災者に楽しんでもらいながら、地域間の交流の場を作ることを目的とした参加型のモザイクアート制作イベントを企画する。

〈継続性や社会的影響への配慮〉

制作するモザイクアートのテーマをその土地と関連付け、地域の人に寄り添ったアート制作活動を行う。

連携(外部とのつながり)

輪島市の三井公民館館長の小山栄様に協力して頂き、地域の人達と交流するイベントを企画した。

また、芸術資源開発機構(ARDA)様にもイベント開催に当たってのアドバイスを頂いた。

取り組み(行動と成果)

6月15日の午後1時から地域の方々に参加して頂き、貼り絵を制作するイベントを開催した。

事前に貼り絵イベントを告知するポスターを制作し、掲示板などで告知して頂いた。

輪島市の建物をモチーフにしてAIを活用して下絵を制作し、その上に折り紙を貼り付ける形とした。

当日は地域の公民館のホールをお借りしてイベントを行い、地域の方々と会話をしながら貼り絵を制作し、交流することができた。

完成した貼り絵は公民館に寄付させて頂いた。



図3 イベントの様子



図4 完成した貼り絵

参加者の声・反省点

イベント終了後、参加者の皆さんにイベントについてのアンケートをとった。

〈感想・意見〉

○交流、満足度

→「楽しかった」など好意的な意見が多かった

○イベントの終了予定時刻について予告をしてほしかった

→終了時刻についてもう少し周知する必要があった

引用 参考文献

・“復旧・復興の進捗感じず”回答の68%能登半島地震から一年
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241231/k10014682941000.html>